

庁議の概要

開催日 平成19年12月6日(木)

◎項目

- 1 知事からの退任あいさつ
- 2 その他

◎内容

1 知事からの退任あいさつ

【知事】

- ・ 皆さん、16年間、お世話になりましたありがとうございます。庁議に出て思い出しますのは、16年前、私は44歳でございましたので、庁議メンバーの中では一番若いメンバーでございました。一回り以上先輩という方々ばかりの中で仕事をスタートしたというのを思い出します。それが今は、年齢では最年長になっておりますので、これも卒業にふさわしい光景なのかなということを思います。
- ・ 今朝、新知事に引き継ぎをしたわけですが、決して前向きの話ばかりではなくて、そうした課題でも引き継がざるを得ないものがいくつかございました。短期的に一つの判断をしなければいけないものは高知競馬をどうしていくかということでございますし、中長期的には森林整備公社の問題なども大変大きな課題として残るものだと思います。
- ・ また、全く別の視点で、モード・アバンセの住民訴訟のことなども、最後まで残った課題でございました。すべて解決をして新知事さんに引き継ぎたいという思いでございましたが、それが時間的に間に合わないままでございました。裁判所からも一定のところできちっとけじめをつけて、新しい体制で心おきなく仕事に取り組むようにしたらどうか、というような趣旨のお話は来ておりますので、是非そのような視点で、またこれからも庁内で協議をいただいて、早く職員全員が、気持ちをそういう意味で新たに仕事ができるような体制にしていきたいなということを思います。
- ・ 職員の士気ということで言いますと、やはり問題が起きたことによって、突き進んで仕事をしていくタイプの職員が少なくなったのではないかとということを心配される幹部の方がいらっしゃいます。確かに、一直線に進んでいく突破型の方は少なくなっていると思いますが、それがいろんな事件などが起きたことの結果なのか、それとも別の理由によるものなのかというようなことを、是非また皆さんにお考えをいただきたい。職員の中にはじっくりという人も必要ですし、あるとき思いを持って突っ走る職員というの必要だと思います。そういう、いろんな人材がこれから若手、中堅の中で育っていくように、是非、各部局長さんにも心がけていただきたいなということを思います。
- ・ それから庁議での変化ということで言いますと、最初のころは各部局長がそれぞれの部局を代表して報告をすとか、意見を言うというだけでしたが、最近はいろんな共通のテーマに沿って、部局としての色々なご意見を述べていただいて、前向きにかみ合うようになってきたと思います。また、庁議の中に、監査委員事務局、産業振興センターという従来なかったメンバーにもお入りいただくことによって、幅広い視点も出てきているだろうということを思います。けれども、まだまだ一言、この情報に関係するあそこに伝えておけば、もっとみんな仕事しやすくなる、またはもっと幅広い展開ができているのと思うことがあります。いろいろなあいさつ文の起案を見ても、その1つの担当課が書いているので、このテーマであればあの話もあったのに、この話があったのにというものが全然入ってこないというようなことがあります。

ますので、是非、部局の壁を超えた情報の共有化ということは、少しでも進むようにしていただきたいと思います。政策協議の中の中山間対策など、何も担当部だけではなくて、各関係の部局が一緒になってどうしていくかということ、これから財政的にも人的にも厳しくなっている時代にはどうしても考えなくちゃいけないことだと思いますので、是非そのこともまた一歩踏み込んで取り組んでいただけたらと思います。

- 新知事に2時間半余りにわたって61項目のお話をいたしました。それぞれに真剣に耳を傾けていただきましたし、県立大学の改革だとか、工科大学のことだとか、アウトソーシングの問題だとか、財政収支のことだとか、これまでご関心を持たれて勉強をされたこと、そういうことについての考え方だとか、ご質問だとか、いただいた項目もいくつかあります。けれども、短い時間に早口でお話をしていますので、十分理解というか知見を深めていただくまでにはなっていないと思います。是非早い時期に各部局からこうした重要テーマについての報告をしておいていただけたらということをお思います。
- 私が16年前に高知県庁へ来たときも、多くの先輩方に支えていただいて、気持ち良く、またいろんな不安を払拭して仕事に取り組むことができました。新知事も20年近い国の官僚、キャリアという経験をお持ちですから、普通以上の知識、知見をお持ちではございます。けれども、全く新しい立場で新しい仕事に取り組まれるわけですから、不安、戸惑いというものが必ずあると思います。自分自身が知事になっていろんな行事などに参加したときに、戸惑ったことで、例えば、消防や警察関係の会での敬礼、それから、起工式での鍬入れのようなしきたり、慣例がいっぱいございます。そういうことを事前にやっぱり一言でも知らせていく。これは別に新しい知事さんにということではなくて、すべての仕事の引き継ぎのときに言えることですけれども、そういうことで仕事の円滑な継続というものがあるのではないかということをお思います。
- 今申し上げた心配りということも含め、それぞれの業務、仕事の中での今の課題ということも含めて、新知事が気持ち良くお仕事をスタートしてもらえるように。そして全国一の若さという、その力を遺憾なく全国にも発揮をしていただけるように支えていただく。そういう体制を幹部の皆さん方で一日も早く確立をしていただきたいということをお思います。
- 私は、「16年務めた知事最終日で気持ちはどうですか。」ということを重ねて聞かれますが、何か寂しいとかいうような感傷的な気持ちが今も湧いてまいりません。それは日々、最後の日まで忙しく仕事をさせてもらったということもあろうと思います。私はこれから一県民となっても、県のためにまた何かお役に立てればという思いでございます。これまでの日々と気持ち、心構えも変わらないということもそういう寂しさが湧いてこない原因かなということも思います。決して、今日が最後でお別れというつもりはございませんので、これからもまた立場を変えながらも高知のために一緒にいろいろ考えていければということをお思いますので、よろしく願いいたします。

【副知事】

- 知事、本当に16年間ありがとうございました。今知事からお話のありましたいろいろなこと、庁議メンバーを含め、県庁自体が大きく変わってきた16年間だったと思います。今お話のありましたことをしっかりと心にとめながら、新しい県政に邁進していきたいと思っております。また、県庁の外からわれわれを叱咤激励いただければと思います。

2 その他

- 特別職知事秘書より退職（12月6日）に当たってのあいさつがあった。